

人を大切にする学校教育

先日、新幼稚園教育要領の説明を聞くことができました。

幼稚園教育要領改訂のポイントとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」があげられます。その10の姿とは、

- ・健康な心と体
- ・自立心
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量・図形、文字等への関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

です。

別に、幼稚園修了時だけではなく、目標レベルや表記を変えれば大人にだって通用するものであろう。さて、今回の学習指導要領の改訂では、いくつか新たに盛り込まれたが、私は、次の2つが「素敵」と考えている。

1つめは、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」である。幼稚園教育は、明治5年の学制で「幼稚小学」が規定された。我が国の教育制度において伝統があるものである。学校教育のスタートとしての幼稚園教育を重視し、小学校、中学校、そして高等学校への「接続」（連携はもちろんのこと「教育」の接続である）のルートマップをつくっているのである。

2つめは、「キャリア教育」である。従来からある考え方ではあるが、今回、小学校及び中学校の学習指導要領に明示された。進路指導という狭い考えではなく、生き方教育である。

私は、これらから、ヒトの一生を見据えた連続性のある学校教育が法令上完成したのではないかと考えている。

どのような生い立ちの子供であれ、学校教育を通じて、その人生を、有意義なものにし、自ら有意義なものにできるように、子供一人一人を大切に育てる必要がある。

そして、その手段として、求められる資質・能力があり、育成する手段として主体的で対話的で深い学びがあり、その目安として見方・考え方がある。

外国語教育、プログラミング教育など脚光を浴びる様々なものがあるが、これらの基盤になる学習指導要領総則の哲学をしっかりと理解する必要があるとともに、従来のような、過度な「書類」「型」「基準」づくりに偏らない教育を目指す必要がある。

年内に、学習指導要領を読み、今までの自分（自校）の実践を学習指導要領が目指す教育と比較するために振り返ってほしい。